

# 萩之茶屋文化祭開催～ひと花笑劇団に大きな拍手!

## ひと花笑劇団

10月20、21日に開催された萩之茶屋文化祭で、ひと花センターは、ひと花笑劇団「大人の童話」公演のほか、野菜や手作りたわし、コースターの販売、そして西成区防災マップジオラマも展示。大いに会場を盛り上げました。

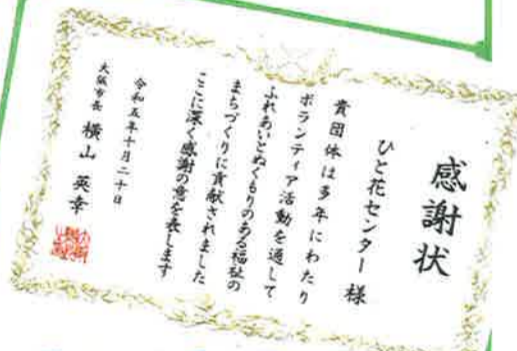
萩之茶屋文化祭で「大人の童話」という芝居を公演された。況ふぶに観て頂きありがとうございました。たい風が強く、せうが風に流されるというアクロバティックなマクワをやらせながら芝居をするという劇団の迷惑をかけずに申し訳ございませんでした。この「大人の童話」という芝居は子供役のおいふと感心した所なので、公演してくれた「I君」に感謝であります。

「I君」のお父さんに抱きつく場面では拍手が起りました。「I君」やったね!  
(I君)



## 西成動物園プロジェクト(仮)始動!

アーティスト井上信太氏指揮のもと、参加者全員で3日間かけて作り上げた木製のカラフルな動物たち約60体。山王みどり公園にて“放牧中”。見に来てね!



## 大阪市より感謝状贈呈される!

ひと花センターでは、平成25年開始以来、公園清掃や子ども見守り隊駅のロータリーにある花壇の世話、ひと花笑劇団の福祉施設公演など西成区で様々なボランティア活動を行ってきました。その功績が称えられ、大阪市より感謝状をいただきました。



### 私のよもやま話

秋深くなって来ました。私の田舎では、子供の頃は山に松茸が良く取れました。元来、松茸は、何処にも生えるんじゃなくて、山の南面で陽当りの良い、赤松の根元にしか生えません。知らない人は、一日中歩いて無理。生える場所は、毎年同じ場所です。内緒場と言いつても教えません。かき回すと、山が荒れて次の年、生えて来ないからです。小学生の頃、造林の仕事をして居る父親の弁当を届ける時に、近道し誰も行かない岩場を登り、頂上の、赤松の根元に、数え切れ無い松茸流石にびっくりしました。太くて長い松茸一本だけ取り家に、一本だけ! 周りに生えて無かったか!! 数が多過ぎて辞めた。! 今から行こう。嫌やしんどい。場所は? 南の谷の崖の一本松の根元や。父親がひよつとしたら、死んだ爺さんの、内緒場かも。その年は豊作で20キロ以上取れ、かなりの金額で売れたそうです。母親が、お前は喋りやから心配や! 毎年、秋になると、夜明け前に、嫌がる犬連れて松茸取りに。私の内緒場や! 嬉しそうに話していました。今では過疎化が進み、山は荒れ放題、松茸も、余り生えないそうです。母親があのお世で、嘆いているかも! 先日、妹が、松茸狩りに行き、少し取れたと、3本送ってくれました。母の内緒場、妹が、知っていた事が、嬉しかったです。 桐井でした。

秋風が 老いの身に吹く 終活 岡本太郎

コスモスは 秋風にゆれ いいピンク GOD

神様も 月見見ぶつ 神無月 三浪

未枯れや 泥靴の君 徘徊す 一平

枯れ葉散る 炊出し並ぶ 遠い夢 三好征治

ふるさとの 社静かな 神無月 MISO

# ひと花新聞

第 121 号

令和5年11月5日  
発行・認定NPO法人釜ヶ崎支援機構  
ひと花センター  
〒557-0002  
大阪市西成区太子1-13-15  
電話・06-6649-7890